

# 講義要項作成様式（講義用）

平成27年度 後期

大学院

授業科目 事業創発マネジメント応用研究

2 単位 担当教員 志村、村上、山田

## I. 授業のテーマと目標

今世紀になって以降、日本経済の成熟化とあわせ、経済のグローバル化がますます進行し、新興国から追い上げられる一方、新興国の成長が新たな事業機会をもたらすなど、我が国の社会経済システムは大きな移行期の只中にある。また、東日本大震災以降の社会システムに対する国民的な意識変革や、今後本格化する IoT の普及などを契機として、産業や企業経営の構造的転換が大きな論点となってきた。

本講義では、こうした社会の変革期にあつて、様々な環境変化と呼応した新たなビジネス・システムの“創発”ということを考える。ビジネス・システムは、「主体間の相互関係の構築」と、ヒト・モノ・カネ・情報といった「リソースの構造化」という二つの側面から見ることができるが、“創発”ということがそのいずれにも共通する特性として浮かび上がってくる。

具体的には、事例を交えた多角的な議論を行う中で、「事業創発」のマネジメントの実践へのガイドラインを提示する。

## II. 教科書・参考書

特になし

## III. 授業の内容の要旨と授業計画

<授業の概要>

### 1. 事業創発総論（志村）

ここでは、事業テーマや事業化プロセスに関わる「創発」とは何かについて、創発に関連する諸論をレビューしつつ、特に共創／協創による事業創発のプロセスを考察することによって、事業創発の概念整理と体系化を行う。

### 2. 事業計画策定における創発的プロセス（山田）

問題への着眼（I：イシュー）を中心に、問題解決のロジック（S：ソリューション）、合意形成（O：オペレーション）という事業化の方法論の全体像をレビューするとともに、特にチームの協働を通じた創発について演習を通じて実践的に理解する。

### 3. 事業化への創発的合意形成（村上）

収支計画、資金調達や組織体制など「事業化のディテールの検討」を、複眼的な視点から加えて策定された事業計画をさまざまなステークホルダーに提示・共有することによる、「事業実施への合意の創発」について議論する。

#### 4. 事業創発総合演習（志村、村上、山田）

事業創発の観点からテーマを設定し、①イシューの想定②ソリューションの構想（起案）③合意形成への働きかけ（プレゼンテーション）について演習を行う。

- ・ 事業イシューの創発的発見（創発的インタビュー演習）
- ・ 事業コンセプトの創発（協働的創造演習）
- ・ 事業計画の起案・文章化（個人ワーク＝提出課題）
- ・ 事業化に向けた合意の創発（協働的創造・プレゼンテーション演習）

#### <授業計画>

##### 第一日

- 1-1. 事業創発総論（1）事業における創発的特性
  - 1-2. 事業創発総論（2）事業化のプロセスにおける創発的方法
  - 1-3. 事業創発総合演習「事業イシューの創発的発見（創発的インタビュー演習）①」
  - 1-4. 事業創発総合演習「事業イシューの創発的発見（創発的インタビュー演習）②」
  - 1-5. 事業創発総合演習「事業イシューの創発的発見（創発的インタビュー演習）③」
- [宿題]：演習で創発した事業テーマを文章化しレポートとして提出する

##### 第二日

- 2-1. 事業計画策定における創発のプロセス（1）イシューの深堀と事業コンセプト化
  - 2-2. 事業計画策定における創発のプロセス（2）ソリューションの構築
  - 2-3. 事業創発総合演習「事業コンセプトの創発（協調的創造演習）①」
  - 2-4. 事業創発総合演習「事業コンセプトの創発（協調的創造演習）②」
  - 2-5. 事業創発総合演習「事業コンセプトの創発（協調的創造演習）③」
- [宿題]：演習で創発したコンセプトを事業計画化し事業性を検証

##### 第三日

- 3-1. 事業化への合意形成と創発（1）事業化のディテール（しくみ・組織、ファイナンス）
- 3-2. 事業化への合意形成と創発（2）合意の創発（意思決定の演出）
- 3-3. 事業創発総合演習「事業化に向けた合意の創発（プレゼンテーション演習）①」
- 3-4. 事業創発総合演習「事業化に向けた合意の創発（プレゼンテーション演習）②」
- 3-5. 事業創発総合演習「事業化に向けた合意の創発（プレゼンテーション演習）③」

#### IV. 成績評価の方法

講義への出席率と演習や議論への参加状況に加え、演習を踏まえたレポートの評価による。レ

ポートは、総合演習の内容と関連して提示する課題（イシューとして着眼する社会環境変化、事業創発の展望、創発プロセスのマネジメント等）に対する小論文を採点し、評価する。

#### **V. 学生へのメッセージ**

今後の日本経済の成長には、少しでも多くの企業、行政、消費者が事業創発を理解し、実際にその事業に参加したり、新しいユーザーとして厳しく事業を選別したりすることが必要条件です。本講義は、参加者が近い将来に何らかの形で事業創発に関わる時の準備として位置付けられることを期待します。

なお、開講に先だち、事前課題として以下のことを考えてメモにまとめておいてください（メモは第一日目の講義の時に持参してください）。

#### **[事前課題]**

自身の所属する組織において今後検討したい事業化のテーマとその概要（200字程度）